

## VII-7

POEMS 症候群に対する新規治療戦略：(2)サリドマイド・デキサメサゾン療法

桑原 聡<sup>1</sup>、三澤園子<sup>1</sup>、金井数明<sup>1</sup>、澤井 撰<sup>1</sup>、中世古知昭<sup>2</sup>、西村美樹<sup>2</sup>

千葉大学神経内科<sup>1</sup>、千葉大学血液内科<sup>2</sup>

【背景・目的】POEMS 症候群 (Crow-Fukase 症候群、高月病) に対するサリドマイド療法の有用性を検討する。本症候群は形質細胞腫を基盤に、VEGF の過剰産生によって末梢神経障害、胸腹水、浮腫、臓器腫大などの多彩な症状をきたす全身性疾患である。有効な治療が行われない場合の生命予後は不良であり、平均生存期間 33 ヶ月との報告がある。近年、自己末梢血幹細胞移植 (PBSCT) を併用した大量化学療法の有用性が報告されているが、移植療法の適応対象にならない患者に対する新規治療を検討する。【方法】高齢あるいは臓器障害により PBSCT 併用大量化学療法の適応にならなかった POEMS 症候群患者 9 例に対して、サリドマイド (200mg/日)、デキサメサゾン (12mg/m<sup>2</sup>、月に 4 日間) の投与を行った。【結果】2 ヶ月 - 1 年 4 ヶ月の観察期間で、全例で血清 VEGF 値の低下傾向、神経症状・神経伝導検査所見の改善または進行抑制を認めた。7 例で浮腫または胸腹水の改善を認めた。4 名で薬疹のため投与の中断または減量を要した。【結論】移植療法の適応にならない POEMS 症候群患者に対する新規治療法として、サリドマイド・デキサメサゾン療法は有用な可能性がある。